慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	語彙を中心とした中国語中級教材作成についての研究
Sub Title	A study on the possibility of lexis-centered intermediate lever Chinese textbooks
Author	浅野, 雅樹(Asano, Masaki)
Publisher	
Publication year	2015
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2014.)
JaLC DOI	
Abstract	主に大学の授業で使用する新しいタイプの語彙学習を中心とした中級中国語テキストの作成に向けた研究を行った。従来の本文(課文)や文法項目中心のテキストから, 語レベルの特徴や難易度に応じた語彙の導入や, 日本語の漢語語彙との関係性を利用した語彙の提示方法について考察を行った。また「語彙論体系知識」を教育内容に含めることを提起した。「語彙論体系知識」の中で, いくつかある項目のどれを取り入れるのかという問題に対して, 学習者に対するアンケート調査も何度か行い, その結果に依拠して, 大筋の結論を得ることができた。さらにテキストの試用版を作成し, その一部を授業等の教育現場で使用することができた。 This research centered on the preparation of intermediate level Chinese language textbooks focusing on new vocabulary learning methods used mainly in university courses. Looking at traditional textbooks focusing on text (reading) and grammar points, this study considered the introduction of vocabulary corresponding to word level characteristics and difficulty level and the method of presenting vocabulary using relationships to Chinese-derived words in Japanese. This study also proposes that "lexicological knowledge" be included in educational content. On the topic of "lexicological knowledge, "regarding the problem of which of the multiple points to include, multiple questionnaire surveys were given to learners. Based on the results of the surveys, a rough overall conclusion was obtained. Furthermore, trial edition textbook material was prepared and partially used in the actual educational arena, such as classes.
Notes	研究種目 : 若手研究(B) 研究期間 : 2011 ~ 2014 課題番号 : 23720287 研究分野 : 中国語教育
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_23720287seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３７２０２８７

研究課題名（和文）語彙を中心とした中国語中級教材作成についての研究

研究課題名（英文）A study on the possibility of Lexis-centered Intermediate Lever Chinese Textbooks

研究代表者
浅野　雅樹（Asano, Masaki）

慶應義塾大学・文学部・准教授

研究者番号：７０５１４１３１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：主に大学の授業で使用する新しいタイプの語彙学習を中心とした中級中国語テキストの作成に向けた研究を行った。従来の本文(課文）や文法項目中心のテキストから、語レベルの特徴や難易度に応じた語彙の導入や、日本語の漢語語彙との関係性を利用した語彙の提示方法について考察を行った。また「語彙論体系知識」を教育内容に含めることを提起した。「語彙論体系知識」の中で、いくつかある項目のどれを取り入れるのかという問題に対して、学習者に対するアンケート調査も何度か行い、その結果に依拠して、大筋の結論を得ることができた。さらにテキストの試用版を作成し、その一部を授業等の教育現場で使用することができた。

研究成果の概要（英文）：This research centered on the preparation of intermediate level Chinese language textbooks focusing on new vocabulary learning methods used mainly in university courses. Looking at traditional textbooks focusing on text (reading) and grammar points, this study considered the introduction of vocabulary corresponding to word level characteristics and difficulty level and the method of presenting vocabulary using relationships to Chinese-derived words in Japanese. This study also proposes that "lexicological knowledge" be included in educational content. On the topic of "lexicological knowledge," regarding the problem of which of the multiple points to include, multiple questionnaire surveys were given to learners. Based on the results of the surveys, a rough overall conclusion was obtained. Furthermore, trial edition textbook material was prepared and partially used in the actual educational arena, such as classes.

研究分野：中国語教育

キーワード：中国語教育　中国語語彙　中国語テキスト

１．研究開始当初の背景

日本で出版され、主に日本の大学で使用される中国語のテキストはコミュニケーション能力の育成や異文化理解に重点が置かれる。現状では初級テキストは発音や文法、初中級～中級レベルは読解中心で内容的にビジネス、新聞、文学作品、文化、キャンパス内会話など特徴が加えられるものが主流である。

中国語学習の特徴として、特に中級レベルにおいては文法と語彙の境界線が明確ではなくなる分、他の言語に比べて語彙に関する重要性は高いと言える。しかしながら、大学の授業で使用されるテキストはピンインなどの発音、虚詞や文成分などの文法に関する情報量が多く、またテキストの構成もこれらを中心にして作成されていると言える。中級レベルのテキストでは、一般的に発音や文法、語彙といった言語要素に関する内容は、初級テキストと比較すると全体的にやや少なくなる。中でも、語彙に関しての学習事項に割かれる分量は極めて少ないという状況がうかがえる。

２．研究の目的

主に日本における大学の授業などで使用される中国語のテキストについての状況を観察すると、初級段階のものが圧倒的に多く、中級レベルにおけるものは比較的少ないと言える。また内容に関しても、言語的要素を中心として作成されるのではなく、テキストの各課における課文のジャンルを中心にテキスト全体が構成されるのが一般的であると言える。本研究はこのような背景から、まず日本語話者の学習者に対象を限定し、その語彙習得や語彙教育に関する理論的かつ実用的な面における研究を行なう。その上で、主に中級テキストにおいて、語彙をどのように導入し、提示すべきなのかという課題についての考察を行なう。その後、テキストの試用版を作成し、最終的には新しいタイプの「語彙を中心とした中級テキスト」を作成し、大学の授業などの教育現場において使用し、その効果を見極めることが目的である。

３．研究の方法

（1）現在主に日本の大学で使用されている約 60 部の中国語テキスト（初中級～中級レベル）に対し、テキストの構成、内容について調査を行った。さらに中国国内で出版されている国際漢語教育（対外漢語教学）用の一部についても同様の調査を行なった。またどのような語がテキストの主に語注の部分に提示されているのかといった語彙の導入。またテキスト各課における語注の形式のほか、訳語や品詞、ピンインがどのように記されているのかといった点についても調査した。さらに、テキスト全体における「語彙論体系知識」の付記などについても調査の対象として、統計を取った。

（2）多くの語彙情報が記さている一般辞書や学習用辞典を参考にして、見出し語の選定、同形異音語や多義語の処理、形態素やフレーズといった語とは異なる単位との関係性などについて考察を行った。また辞書における見出し語の釈義や用例提示、用法提示などを分析・考察することにより、主に日本語話者の学習者に必要な語彙情報を見出すことを試みた。

（3）所謂「語彙論体系知識」について整理をした。主に中国語による語彙論の概説書や研究書に依拠し、数多くある「語彙論体系知識」の項目の中で、とりわけ日本語話者の学習者にとって必要であると見なせる項目を指摘した。また実際に学習者が持つ「語彙論体系知識」を把握する目的で、アンケート（質問項目 30、五段階方式）を作成した上で、それを何回か実施した。

（4）本研究の過程において、得られた成果を基に、学習者の語彙学習を中心に構成したテキストの試用版を作成し、その一部を本人が担当する授業等の教育現場で使用した。また、部分的にではあるものの、その効果を検証した。

４．研究成果

（１）現在主に日本の大学で使用されている約 60 部の中国語テキスト（初中級～中級レベル）に対して、テキストの構成、内容について調査を行った。その結果、課文の内容や分量は各テキストにおいて様々であるが、テキストの構成要素である「語注（語釈）」と「ポイント（学習要点）は全般的に均一的であることがわかった。また、「語注（語釈）」は大多数のテキストにおいて、課文に対する読解の必要性に応じ、「語－ピンイン－訳語」の形式で付されていることが明らかになった。またテキスト各課には、学習者が学ぶべき学習項目（一般的に五つ前後）が、「ポイント」或いは「要点」という名称の箇所で示される。各項目に関する数行の解説が記され、その下に関連する用例文を複数示す形式が多く見られる。このたびの研究においては、このポイントの部分に挙げられている内容を調査した。その結果、アスペクト助詞や前置詞などの虚詞や“把”構文、受け身構文等の構文（文型）、文の形をした目的語、補語などの文成分に関する項目が多く見られた。全体的に見れば、文法的な範疇における要素、事項と見なせる例が多数を占めることが分かった。その一方で、語彙論の範疇に属すると見なせる事項は極めて少なかった。

（２）学習者の語彙学習を中心としたテキストの構成を考えるのであれば、従来の課文に応じた、語彙の導入・提示方法を改め、語の何らかの語彙的な特徴に依拠した上で、テキ

ストに取り入れることを指摘した。具体的な方法の一つとして考案したのが、中国語の語と日本語の漢語語彙の関係性を利用したものである。

日中語の関係性	テキストに示す語彙情報及びタスク
日中同形同義語	ピンインを書かせるタスク
日中同形異義語	文中の使用例から意味を類推させるタスクなど
日中同形近義語	日本語の語形との意味・用法上の相違を詳細に明示的な説明する
日中異形語	語を書かせるタスク、類義語や反義語などの語彙情報を付すなど

上表のように、日本語話者の中国語学習の特性を応用し、様々な語彙情報を学習者に与えるものである。現存のテキストにおいては語注などの箇所に提示した語には、すべてピンインと訳語を付すといったような一律的な方法が取られている点と比較すれば、本研究において示した方法は、より学習者の語彙学習や習得を重要視したものであると言える。

（3）テキストにおける一課分の構成について、一般的に用いられる「課文→語釈」という順序ではなく、「語釈→課文」というように、まず語そのものに関する構成要素を各課の先頭に位置づけることにより、使用者の語彙学習に対する意識を向上させることを提起した。このように配列すれば、テキスト作成の段階で、ただ課文を読解するという必要性に応じて単語を導入し、提示するという従来の方法を変えることができる。つまり、語彙を中心とした学習や教育という観点から、まず重要な単語を取り出し、課文については、それにしたがって作成するという方向性が可能になる。

（4）一般的な中級中国語テキストの構成要素の一つである「練習問題」について、既存のテキストに対して、調査を行った。その結果、各課の最後に付されることが多い「練習問題」の内容や形式は、課文で示されたものと類似する文の和訳や、文法事項を問う選択や空欄の問題、またリスニングの問題がほとんどであることがわかった。学習者の語彙能力を試す問題や語彙学習に関わる問題が用いられることは稀であるが、本研究においては形態素や類義語、反義語、上下位語などの語義の体系性などの面からの語彙に関する問題を付すことも可能であることを提起した。

（5）中国語教育全般における言語的要素（発音、語彙、文法）に関わる教育内容の平衡性と学習者の学習効果を向上させるため、「中国語語彙論体系知識」を教育内容に盛り込み、明示的な指導ができる方法を提起することができた。数多くある体系知識の項目において、具体的にどれをどのように教えるのかという点について、学習者の効果的な語彙学習や誤用防止の観点等、教授側からのアプローチを行なった。さらに学習者が実際に有する「語彙論体系知識」の現状を把握する目的で、学習者を対象としたアンケート表を作成し、幾度かそれを実施し、学習者側からの「語彙論体系知識」に関するアプローチをも行なった。結果、優先的に教育内容に盛り込む項目をいくつか見出すことができたほか、教授側があえて取り上げない場合でも、学習者の暗示的学習により、すでに理解されている項目が存在することも明らかになった。

（6）上述した、「提示語－ピンイン－訳語（品詞）」という語注（語釈）の形式に換わる語彙のテキストへの導入方法と、「語彙論体系知識」をテキストの構成要素の一つである「ポイント（学習要点）」に盛り込むという方法により、「語彙を中心とした中国語中級テキスト」の試用版を作成し、一部を研究代表者本人が担当した授業等の教育現場で使用することができた。また部分的にではあるものの、学習者に対して時系列的な観察を行ない、その効果を検証することができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

① 浅野雅樹、中国語語彙教育の課題と語彙学習を中心とした中級テキスト作成についての考察、『藝文研究』第 105 号、2013、101-121、査読無

② 呉香善・浅野雅樹・クリスティンサリバン、下関市民の外国語学習の現状と課題について －英・中・韓三つの言語を中心に－『地域共創センター年報』第 6 巻、2013、9-22、査読無

③ 浅野雅樹、中国語中級テキストにおける練習問題についての調査と考察 －語彙学習に関する問題作成の試み－、『下関市立大学論集』第 56 巻第 3 号（通巻第 144 号）、2013 9-22、査読無

④ 浅野雅樹、語彙を中心とした中国語中級テキスト作成に関する研究序説 － 学習者にとって必要な語彙情報は何か －、『下関市立大学論集』、第 55 巻第 3 号（通巻 141 号）、2012、67－78、査読無

⑤ 浅野雅樹、類義語をどのように教えるか『中国語教育』、第 9 号、2011、133－158、査読有

〔学会発表〕（計 4 件）

① 浅野雅樹、語彙学習用中国語中級テキストの一課分の構成とその試作例について、日

本中国語学会九州支部例会（福岡県福岡市九州大学)、2013 年 7 月 13 日

②浅野雅樹、试论在日本出版的汉语中级教材中的词汇注释问题、第四届亚太地区国际汉语教学协会年会（ベトナムハノイ市河内国家大学付属外国語大学主催)、2012 年 10 月 13 日

③浅野雅樹、語彙を中心とした中級テキストの作成について、中国語教育学会第 10 回全国大会（千葉県千葉市神田外国語大学)、2012 年 6 月 10 日

④浅野雅樹、文法面における類義語弁別法について　－類義語辞典の記載を中心に－、中国語教育学会九州支部例会（福岡県福岡市西南学院大学)、2011 年 1 月 8 日

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
浅野　雅樹　（ASANO, Masaki）
慶應義塾大学・文学部・准教授

研究者番号：70514131

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：